



ヒメトビウンカ雌成虫(左)とイネの収穫時被害(右)

ヒメトビウンカとイネの病氣「カメムシ目・ウンカ科」イネの収穫時期が近づくと、越生町の田んぼでも、実りの無い、枯れてしまった穂を見つけることがあります。その穂軸がグニャグニャと曲がっていたら、それはウイルス病のイネ縞葉枯病です。この病氣はヒメトビウンカ(セミと同じ仲間)が媒介します◆ヒメトビウンカ成虫の体長

は3.5mm前後、小さな害虫ですが伝搬するウイルス病被害は甚大で、1975年前後の埼玉県内の主力品種「日本晴」では、収穫皆無の水田が大規模に出現しました。それによつて埼玉県は、イネ縞葉枯病の抵抗性品種「むさしこがね」を育成し、日本で最初に導入。1985年には埼玉県内の62%の水田で栽培されました◆現在の越生町では、「むさしこがね」の血を引く「彩のかがやき」が多く栽培され、この品種ではイネ縞葉枯病が発生していません。しかし、「キヌヒカリ」などでは発生しています◆ヒメトビウンカは活発で、肉眼での観察は容易ではありません。しかし、捕虫網で葉をすくい取ると簡単に捕獲でき、虫めがねを用いると容易に見つかります。「彩のかがやき」はイネ縞葉枯病には抵抗性がありますが、ヒメトビウンカには抵抗性が無く発生します。一方、ツマグロヨコバイ(緑色の小さなセミの仲間)には抵抗性があるので、この害虫は発生しません。

(江村 薫)

おごせ アート ミュージアム 【特別編】



墨、透明水彩2014年8月作成



栗田知佳さん(大谷)
(本名:酒本知佳さん)

静岡県出身。東京芸術大学卒業後、越生町大谷に移住。緑に癒されながら制作活動をしています。絵の題材は主に日本の祭りや民俗芸能。越生まつりでは、越生まつりを題材にした作品の展示をしました。

あとがき

気象庁の発表では今年も冷夏だったはずなのに、やっぱり暑かったですね。

今年から職員用にうめりんの刺繍入りポロシャツができました。この自治体とは言えませんが、どこかわいくないゆるキャラをセンスなくあしらったポロシャツではなく、紺地にフンポイントのうめりん、なかなかおしゃれなポロシャツなので重宝されています。これなら市町村職員が集まる会議でも堂々と着られます。

もうすでにイベント時をはじめ、日常業務でも若い職員からそうでない職員、管理職員まで着用しています。また8月最終週はうめりんポロシャツウィークとして、積極的に着用しました。みなさん気づきましたか? 【太陽】

9月の納税 (9月30日まで)

固定資産税 第3期
国民健康保険税 第3期

バーコード印字のある納付書は、納期限内に限りコンビニエンスストアでの納付に使用できます。詳細は納付書をご覧ください。

人口と世帯 8月1日現在()は前月比

総人口	12,371人	(-14)
男性	6,166人	(-8)
女性	6,205人	(-6)
世帯数	4,956世帯	(+2)